地域おこし協力隊　第62回

『素敵な過疎のまち』の“素敵”づくりと発信に貢献



北村　奈津希（きたむら　なつき）

1991年生まれ。静岡県浜松市出身。大学在学中に「アウトキャンパス・スタディ事業」に参加し、厚沢部町を初訪。その魅力に惹かれ2025年７月に横浜市瀬谷区から夫、０歳、４歳の子どもとともに移住、着任。

【厚沢部町との出会い】

今から13年前、2013年９月に大学４年で『アウトキャンパス・スタディ』という事業に参加したことが厚沢部町と出会ったきっかけでした。初めて来た北海道、初めて来た「あっさぶ」は、広くて圧倒されるほど自然が豊かで、その景色の美しさに心奪われたのを覚えています。

アウトキャンパス・スタディでは、農家さんの家にファームステイというかたちで約１週間お世話になりながら、農業のお手伝いや郷土料理を教えてもらったり、学校で授業をさせていただいたりとさまざまな経験をしました。夜にはほぼ毎晩お酒を交えながらいろんな方と交流し、帰るころには「また帰ってこい」という言葉をもらい寂しさに涙するほど、厚沢部町での時間は私にとってかけがえのないものになりました。初めて訪れた場所、初めて会った人たちなのに、「自分を受け容れてもらった」という感覚が強くあり、それは奈良に戻ってからも、就職し東京・大阪で働くようになってからも心に残っていました。

しかし、そうはいっても「移住」までは考えていなかった私がこうして移住し、地域おこし協力隊として活動しているのには、結婚・出産をして「子どもを育てる経験」をしたことが大きく関わっています。

コロナ禍で人との接触が思うようにできない時に妊娠・出産、そして大阪から横浜への転居が重なった影響もありますが、都会での子育てでは、“孤独”を感じていました。わざわざ子ども家庭支援センターのようなところに行ったり、相談の電話をかけたりするほどでもないけれど、日常的に気軽に話せる「子育て仲間」になかなか出会ず、しんどさがありました。

また、子どものことを考えても閉塞感のようなものがありました。一期一会の出会いは多いものの継続して遊べる「友だち」ができなかったり、遊び場は多いけど自然の中で工夫・創造する遊びができる環境が少なかったり。また、就学の次は「受験」を前提としたような流れにも息苦しさを感じていました。

もう１つ大きかったのが「地域おこし協力隊」を志願した理由でもある「仕事」でした。子育てと仕事の両立が難しく、新卒から勤めていた会社を辞め、アルバイトをしていた私は、転職活動をするとしても、やりたいことも見えないし、自分で何かやってみたい気持ちはあるけれど、今までの経験だけではやれる気もしない。「やりたいことを仕事にする」という密かな憧れと今の自分の環境との間で、漠然とした焦りを感じていました。そんな時に思い出したのが、厚沢部町の存在。そして、アウトキャンパス・スタディ時に知った「地域おこし協力隊」の存在でした。

私のような外の人間を受け容れてくださったまちで、子育てや協力隊の仕事をしてみたら、「何か」が変わるかもしれない。この孤独や閉塞感を抜け出せるかもしれない。そう思い、そこから２年ほど夫と話し合い、移住と地域おこし協力隊への挑戦を決めました。

【まちの魅力発信と広報（PR）業務】

私は、「素敵な過疎づくり株式会社」というまちが100％出資した移住促進を主な事業とする会社に所属しており、１年目には道の駅の会計業務をしながら、会社のさまざまな業務やイベント出店、運営などのお

手伝いをして、まちのことを知りつつ、前職で経験があったSNSを中心としたPRの仕事をしていました。（PR業務は継続中）

PRについては、厚沢部町では現在「保育園留学」という事業を通じて全国から年間200組以上の家族がまちを訪れ、いまでは全国70か所以上で行われている事業の始まりの地として注目を集めていることもあり、主に以前の自分と同じような都市部の子育て層の方々に向けた発信をしています。実際に住んでみて感じるまちの素敵なところや子育て環境としてのまちのよさ、また反対に不便さやギャップなどを、等身大で綴ることを意識しています。

ASSABU.CHIIKIOKOSHI

【親子の遊び場『あっさぶであそぼう！』企画・運営】

今年度からは、主に未就学児とご家族を対象にした場づくりをしています。『親が頑張りすぎなくてもゆるやかに地域と繋がりながら親子でのびのび遊べる場』をコンセプトに、身近なもので遊べることや季節感、そして厚沢部町の環境や施設を活かせることを軸として内容を考えており、「ギネス記録を持つ紙飛行機をつくろう」や「割れにくいしゃぼん玉をつくろう」、「露地アスパラを収穫して食べてみよう」という企画を３回実施しました。

自分でゼロから企画運営をするという経験は初めてなので、準備段取りや危険の想定、周知、当日の運営、事後の報告など･･･、さまざまな点で手間取ったりもしましたが、子どもたちから「楽しかった」と言ってもらえたり、未参加の方から「行ってみたい！」と言ってもらえることはとても嬉しく感じています。

周りの方に協力してもらいながら少しずつ経験値を上げ、自分も楽しみながら「気軽に遊べて、パパママともおしゃべりができるゆるやかな場」「子どもたちが自分で工夫することを楽しめる遊び場」を目指して場を育てていくことができたらと考えています。

【木のぬくもりを子どもたちへ】

子どもを連れて「移住」をするというだけでもやっていけるか不安な状況で「地域おこし協力隊」として厚沢部町に飛び込んでみて、１年が経過するころまでは、正直なところ毎日が忙しくて「自分が何を感じているのか」「どうしたいのか」もあまりわかっていませんでした。（笑）

ただ、１年以上が経ったいま、さまざまな出会いや経験を経て「木」を活かした取り組みができないかと模索しているところです。

厚沢部町は農業と林業を基幹産業としていますが、なかなか「林業」に触れる機会がありません。私自身、木のぬくもりや香り、質感が大好きで、木製のお皿やカトラリー*1、おもちゃなどを暮らしに取り入れていました。これを「厚沢部町の木でつくることができたら･･･！」と妄想しています。ゆくゆくは、まちの子どもたちや厚沢部町を訪れる方々と一緒につくることができたら･･･！なんて。暮らしの品やおもちゃを通して厚沢部町のあたたかさを感じてもらえたら、素敵じゃないですか？（笑）

2026年10月８日より「道の駅あっさぶ」もリニューアルオープンしました。イベントスペースができたり、冬場には売り場の一部を子どもの遊び場にする計画もあるので、13年前に出会った私の好きな「世界一素敵な過疎のまち」を掲げる厚沢部町の“素敵”づくりに貢献することができたらと考えています。



『あっさぶであそぼう！』の様子



まちの夏まつりでヒバを使用した「サシェ*2」づくり体験

＊１カトラリー
食卓用のナイフ・フォーク・スプーンの総称。
＊２サシェ
フランス語で小さな袋（香り袋）、フレグランスアイテム。